



## 新しい学科に惹かれて入学

高校2年生の文理選択で理系を選択したときに、理系のものづくりに携われる分野に進もうと考えていました。その中でも、建築分野に興味を持っていました。建築について学べる大学について調べる中で、富山大学の都市デザイン学部という聞きなじみのない学部名に惹かれました。

モノづくりの基盤になる「材料」という可能性がある分野であること、設立間もない学部学科で何か新しいことが出来そうだという感覚がありました。富山大学都市デザイン学部の材料デザイン工学科を受験し、進学しました。

## 材料の幅広い活躍

入学前は「なんとなく」、材料デザイン工学科ではいろんな金属材料や樹脂について学べるのだろうという認識でした。

2年次から専門授業が増え、材料の中でも研究室の教授によって研究分野が全く違うということを知りました。その中で、生体材料に関する研究があることを知り、面白そうだと思いました。

4年次の研究室選択では、軽量材料工学の石本先生の研究室に入りました。

## 材料研究以外のことにもチャレンジ

元々は生体材料に興味を持ったことで決めた研究室ですが、今はさらに広がりを持って自動車・航空業界でのチタン活用に関する研究を進めています。

具体的には自分で設計したチタン合金の表面観察と、組織によって特性が変わるかという評価をします。

最近ではPythonというプログラミング言語を設計しています。研究の効率化のために、材料以外のことにもチャレンジしています。研究をより良くしたいという思いを持って、日々取り組んでいます。

## 未知なる部分が多いチタンの魅力

チタンは軽くて丈夫である特性が評価され、iphoneのボディにも採用されています。それでも、まだまだアルミニウムやマグネシウムほどメジャーではなく、研究テーマとしてはまだまだニッチです。知られていない部分が多く、それを解明していくことにチタンの魅力を感じています。

## 研究の楽しさを覚えて、研究職に

修士のあとは、博士に進んで研究を続けるか就職するか、少し悩みました。

しかし、大学での実験や研究そのものが楽しく思えることから、仕事で研究開発に関わる道に進もうと考えました。材料工学系の知見を活かせる会社に入社し、やりがいを持って研究していきたいです。



## お世話になった高校の先生へ

現状に満足せず、努力するよう発破をかけていただきました。高校3年間、毎日3時間の通学でしたが、部活動も勉強も頑張ることができました。先生のおかげで今の僕がいます。